

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170502306		
法人名	株式会社ケアプロダクツ		
事業所名	グループホームあじさい美園		
所在地	札幌市豊平区美園7条3丁目4 - 24嘉指ビル2・3		
自己評価作成日	平成23年4月19日	評価結果市町村受理日	平成23年5月27日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170502306&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1 - 6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成23年5月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家族と、入居者、外部との関係を断ち切らない様に支援している。又、ゆっくり、のんびり生活出来る様に職員一同ケアに努めており、笑顔で笑いが絶えないような生活環境作りをしている。職員の外部研修にも力を入れ、職員のやる気の向上にも力を入れている。職員の意見は反映できる様に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<事業所と地域との連携>
火災や地震、水害等の発生に備えて地域の人々からの協力が得られるように働きかけて、地域の防災対策の防災ズキンの寄贈を受けたり、利用者が制作するなど協力体制に努めている。また、避難訓練参加や来訪への呼びかけ、近隣の銭湯の利用や買い物等地域の一員としてその人らしい暮らしを続けるための支援と、交流に取り組んでいる。
<本人と家族の絆を断ち切らない支援>
本人が家族と一緒に自宅で過ごせるように外泊できる環境づくりや外食や買い物等外出できるように支援し、本人と家族の絆を断ち切らないように継続した取り組みをしている。また、一人ひとりの生活の様子や健康状態等毎月「あじさい美園 かかわ版」を発行し、居室担当者より情報提供している。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の	1. ほぼ全ての家族と
		○ 2. 利用者の2/3くらいが	○ 2. 家族の2/3くらいと
		3. 利用者の1/3くらいが	3. 家族の1/3くらいと
		4. ほとんど掴んでいない	4. ほとんどできていない
57	利用者とは職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある	1. ほぼ毎日のように
		2. 数日に1回程度ある	○ 2. 数日に1回程度
		3. たまにある	3. たまに
		4. ほとんどない	4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が	○ 1. 大いに増えている
		2. 利用者の2/3くらいが	2. 少しずつ増えている
		3. 利用者の1/3くらいが	3. あまり増えていない
		4. ほとんどいない	4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が	1. ほぼ全ての職員が
		○ 2. 利用者の2/3くらいが	○ 2. 職員の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが	3. 職員の1/3くらいが
		4. ほとんどいない	4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が	1. ほぼ全ての利用者が
		○ 2. 利用者の2/3くらいが	○ 2. 利用者の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが	3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が	1. ほぼ全ての家族等が
		○ 2. 利用者の2/3くらいが	○ 2. 家族等の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが	3. 家族等の1/3くらいが
		4. ほとんどいない	4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が	
		○ 2. 利用者の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)		66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念「心和」に加え、地域と交わりながら生活出来る様に日々取り組んでいる。又、パンフレットに理念を掲載する事により、事業所と地域の共有を深めている。	事業所独自の基本理念を職員間でつくりあげ、その実践につなげている。また、理念の広報や運営推進会議で地域の人達に理解を得るよう努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、町内会行事には積極的に参加しており、町内会の総会への参加も行っている。又、近隣公園を散歩した際には近所の方と談話したりと交流している。	地域の防災対策参加や防災ズキンの寄贈を受けたり、夏祭りや盆踊り等のホーム行事参加の案内、町内会行事の参加等日常生活を通じて交流の促進に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	パンフレットに介護の相談や、見学についての記載をしており、自施設で対応が出来ない時には、他事業所にも相談している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に開催している運営推進会議で、サービス内容や、問題点等の報告を行い、家族・地域包括・町内会からの意見を参考に日々のサービス向上に活かしている。	運営推進会議は、2ヶ月毎に定期的に開催し、利用状況やサービス提供の具体的内容について話し合い、そこでの意見を運営に反映している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の管理者会議等に出席している。	市担当者や包括支援センターとの連携の重要性を認識し、地区の管理者会議や市主催の研修会等の参加を通じて、協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々の生活の中で、全職員が身体拘束に繋がらないかを話し合い、身体拘束のないケアを実践している。玄関の施錠は夜間の防犯対策で施錠を行うのみである。	身体拘束廃止や高齢者虐待防止について、内部研修を通じて管理者及び職員の共有を図っている。また、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々の生活の中で職員全員が気を付けて接している。虐待に当てはまる行為が無いが毎月の会議の中で話し合いを行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○ 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	会議を通じて学ぶ機会を設けているが、現在、対象者がいない為活用はされていない。		
9		○ 契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分に時間をかけ説明を行っている。その際ご家族やご利用者様に要望・質問・疑問点などを出していただき、事業所で出来る事と出来ない事をしっかり明確にして契約をしている。		
10	6	○ 運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議等でご家族からの意見・要望を聞き、運営に反映出来る様にしている。	家族や来訪者等が管理者、職員並びに外部者へ意見や苦情等を言い表せるように苦情等の受付箱の設置や相談窓口を掲示し、運営に反映できるように取り組んでいる。	
11	7	○ 運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に職員の意見や提案を聞けるようにしており、反映出来るようにしている。	毎月のミーティング等を通じて職員の意見や要望、提案を聞く機会を設けている。また、経営者と話しやすい環境を整え運営に反映できるように努めている。	
12		○ 就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	3か月に1度、給与水準の見直しを行っている。外部研修に参加や、資格取得への支援を行い、各自が向上心をもって働ける様に職場環境の整備に努めている。		
13		○ 職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	1人ひとりの状況に応じて研修への参加を促したり、資格取得のためのサポートをしている。		
14		○ 同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者連絡会への参加を通し、情報交換を行なっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○ 初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に出来る限り、お話を伺い困っている事、不安な事を傾聴し、全職員が情報を共有し、安心して生活出来るように努めている。特に入居1ヶ月は、不安を取り除き、安心して生活できる様に、本人の話や要望に耳を傾け、一日でも早く信頼関係を築ける様努めている。		
16		○ 初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用に至るまでの経緯、困っている事、不安な事を出来る限り傾聴し、ご家族と信頼関係を築けるように努めている。		
17		○ 初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用前から、話し合う機会を多く持ち何が必要か見極め、支援に努めている。		
18		○ 本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援する側、される側という意識は持たずに、共に同じ時間を共有し生活する家族としている。		
19		○ 本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居時の説明の中で、ご家族の協力は絶対必要である事を十分に説明をしており、共に本人を支えていける関係を築いている。また、近況報告は随時行っており、ホームの行事にも参加を求めている。		
20	8	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、親戚以外にも知人や友人なども来訪され、外出や外泊の希望にも応じている。本人宛の電話も繋いでいる。	馴染みの知人や友人の訪問、近隣公園への散歩や町内会行事参加を通じて馴染みの人や場所の関係が継続できるように取り組んでいる。	
21		○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係は把握しており、孤立しないように介護者が橋渡し役する事で支え合えるような支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、いつでも連絡を取れるようにしており、必要に応じて相談や支援に努めている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員全員が日々のケアの中、本人の思いを受け止める様に努力している。毎日の申し送りの中での情報の共有を行い、カンファレンスや会議で再検討している。	センター方式を活用して、一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努め、本人本位に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や、親しい人が面会に来られた際に情報を収集しており、現在の生活の状況などを見ながら職員で検討し話し合い把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録には個人の生活の様子を細かく記録に残す事を徹底しており、申し送り等で情報の共有をしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の観察、意見、アイデアを取り入れた介護計画を作成している。又ご家族とも協力し合い介護計画の作成に努めている。状況に変化が見られた時にはその都度カンファレンスを行っている。	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族の意見を反映するよう努めている。また、カンファレンス、モニタリングを通じて介護計画に職員の意見を反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は記録に残しており、全職員で共有出来るようにしている。アセスメントやモニタリング、センター方式を活用して3ヶ月に1度見直しを行っている。状況に変化が見られた時にはその都度カンファレンスを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診などご家族が対応出来ない場合には職員が同行し、事業所の車両を出すなど、本人や、ご家族の状況に合わせて柔軟な支援が行える様に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の協力の元、近隣スーパーへの買い物や、町内会行事の参加をし近所の方との交流や活動を楽しんでいる。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期往診で健康管理がなされている。結果について、特変があればご家族連絡を行い、適切な医療が受けられるように努めている。	本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。また、医師の往診や看護師との連携で適切な医療を受けられるように支援している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内で看護スタッフが確保されており、何か有れば看護師に相談したり、提携医療機関に相談し、日々の健康管理、状態変化にもすぐに対応出来る様情報の共有も出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、頻繁に病院へ行き病院関係者・ご家族と早期に退院出来る様に話し合っている。又、協力医からも連絡が密に入り本人の状況等の情報交換を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状況により、随時カンファレンスを行い、ホームでは何が出来るかを検討している。ご家族の希望や本人の希望になるべく添えるようにしている。医療に関しては医師や看護師に相談し、支援出来る様に努めている。	本人や家族の意向を踏まえ、医師、看護師、職員が連携をとり、事業所が出来ることを十分に説明しながら方針を職員間で共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な対応方法を学ぶ必要があり、看護師からの助言や勉強会など開いている。全職員が応急手当や初期対応が出来るとは言いがたい。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎日、防災自主点検を行っている。火の元・戸締りの確認は確実に実施している。避難訓練も日中・夜間想定で行われ、災害時等の対策には運営推進会議で何度も話されている。	火災や地震、水害等の発生に備えて地域の人々からの協力が得られるように働きかけて、地域の防災対策の防災ズキンの寄贈を受けたり、利用者が制作するなど協力体制に努めている。	今後は、全ての職員が救急救命を含めて緊急時に速やかに対応できるように訓練を実施することを期待します。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人のプライドを大切に、言葉かけや入浴、排泄、着替え時の対応・誘導もさりげなく行う様に努めている。	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉がないようにミーティングや内部研修の実施で職員間で周知している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が自己決定出来る様に、その人にあった声掛けを実施している。声かけにも気をつけて取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方にあった暮らし方を提案し楽しく充実した生活が送れるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出などの時は、季節や天候に合わせた服装に気をつけている。化粧の習慣のある方には、化粧品と一緒に買いに行ったり、着物を着たりと楽しめるように支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	芋の皮むきや食器拭き等、役割として行ってくれる利用者がある。	職員と利用者が、毎日の調理や食事の準備、後片付け等一緒に楽しんで行えるよう取り組んでいる。	
41		○ 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量、食事量のチェックを行い、発汗や尿の回数、残食量を把握し、必要に応じて協力医に相談している。		
42		○ 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声掛けや介助をしている。また、口腔内に異常が見られた場合は協力医と連携し支援している。		
43	16	○ 排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で排泄パターンを把握し、声かけ誘導で、トイレでの排泄支援をしている。又失敗をしても自尊心を傷つけないように配慮している。	排泄チェック表で排泄パターンを把握し、トイレで排泄できるように時間を見計らって自立への支援をしている。	
44		○ 便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や食品の工夫、適度な運動を行っている。		
45	17	○ 入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に2回、昼食後利用者の体調や入浴確認の上、同姓介助で入浴してもらっている。重度化している利用者は職員2名体制で安全に配慮している。希望があればいつでも入浴出来る様に支援している。	一人ひとりの希望やタイミング、生活習慣に応じて週2回を目安に支援している。また、本人が希望すれば曜日や時間等が対応可能となっている。	
46		○ 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣や、状況・状態に合わせて休息して頂いている。又、夜間安心して眠れる様に日中の活動も重視している。		
47		○ 服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋は記録と共に管理しており、服薬内容について職員理解している。与薬時は名前、日付、を確認して細心の注意をしている。内服の変更時は朝・夕の送り時に確認している。		
48		○ 役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の関わりを通して、やりたいことや好きなことを把握し、介護計画に反映させたり、余暇を利用して取り組めるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○ 日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物、外食など本人の希望にそった外出支援を日常的に行っている。また、外出レクなどの行事もあり、気分転換や地域とのつながりが継続されるよう支援している。	一人ひとりの希望にそって、散歩や買い物等戸外に出かけられるように支援している。また、本人が家族と一緒に自宅で過ごせるように外泊できる環境づくりや外食や買い物等外出できるように支援している。	
50		○ お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の状況に応じて、対応出来る様に支援している。		
51		○ 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族・友人等々から電話等があればご本人に代わっていただき、会話を楽しんでいる。		
52	19	○ 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境整備委員会を設けており、毎月、掲示物や写真の変更を行っている。また、季節感のある装飾や室温・湿度、照明の明るさへの配慮をし、居心地よく過ごせる様に工夫している。	利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。また、リビングや廊下の壁には、行事参加の写真の掲示や季節毎の飾りつけが行われ、利用者が居心地良く過ごせるよう工夫している。	
53		○ 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士が楽しく談笑できるよう見守ったり、必要があれば間に入り、ストレスなく過ごして頂けるよう配慮している。		
54	20	○ 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具や生活用品、仏壇等を持ち込んでいる。家族の写真や趣味の物を飾り、安心して過ごせるよう工夫している。	居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れた家具や寝具、家族の写真等を持ち込まれ、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○ 一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要個所に手すりが設置してある。利用者の居室は名前と顔写真が貼っており、自身の居室が分かる様に工夫している。		

(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170502306		
法人名	株式会社ケアプロダクツ		
事業所名	グループホームあじさい美園		
所在地	〒062-0007 札幌市豊平区美園7条3丁目4-24嘉指ビル2・3階		
自己評価作成日	平成23年4月19日	評価結果市町村受理日	平成23年5月27日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170502306&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1 - 6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成23年5月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域との関わりを大切に、交流を深め、理解・協力を頂ける様に努めている。また、利用者様に、なるべく自立した生活、本人本位の生活ができる様な支援を強く心掛けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の	○ 1. ほぼ全ての家族と
		2. 利用者の2/3くらいが	2. 家族の2/3くらいと
		3. 利用者の1/3くらいが	3. 家族の1/3くらいと
		4. ほとんど掴んでいない	4. ほとんどできていない
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある	○ 1. ほぼ毎日のように
		2. 数日に1回程度ある	2. 数日に1回程度
		3. たまにある	3. たまに
		4. ほとんどない	4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が	○ 1. 大いに増えている
		2. 利用者の2/3くらいが	2. 少しずつ増えている
		3. 利用者の1/3くらいが	3. あまり増えていない
		4. ほとんどいない	4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が	○ 1. ほぼ全ての職員が
		2. 利用者の2/3くらいが	2. 職員の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが	3. 職員の1/3くらいが
		4. ほとんどいない	4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が	○ 1. ほぼ全ての利用者が
		2. 利用者の2/3くらいが	2. 利用者の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが	3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が	○ 1. ほぼ全ての家族等が
		2. 利用者の2/3くらいが	2. 家族等の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが	3. 家族等の1/3くらいが
		4. ほとんどいない	4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が	○ 1. ほぼ全ての利用者が
		2. 利用者の2/3くらいが	2. 利用者の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが	3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない	4. ほとんどいない

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念『心と』に加え、地域と交わりながら生活できるように日々取り組んでいる。ホーム内に理念を掲示し、パンフレットに掲載する事で、事業所のみならず、地域の共有を深めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、町内会行事には積極的に参加しており、町内会の総会への参加も行っている。又、ホーム内行事の敬老会を開催した際には町内会の方も招いている。又、近隣公園等で近所の方とも気軽にお話し、交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近所の方にグループホームが有る事を知って頂いており、質問や相談等に答えている。又、パンフレットに介護の相談、見学についての記載をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を開催し、サービス内容、問題点等話し合われている。会議にてご家族、地域包括、町内会から頂いた意見を参考にし、サービス向上に活かしている。職員一同にはその後の会議にて頂いた意見を共有している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の管理者会議等に参加している。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間は防犯上施錠を行っているが、その他の身体拘束に当てはまる行為が無いかは職員同士で確認・話し合いを行ったり、内部研修資料で再確認を行っている。外出傾向の方には見守りや同行支援を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎日の生活の中で、全職員が気をつけて接している。虐待に当てはまる行為が無いかを話し合い、勉強会も行っている。また、虐待防止への意識が薄れない様、虐待防止のポスターを目につきやすい場所に掲示したり、全職員に身体拘束に関しての資料に目を通して頂き、理解してもらっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全職員が理解はしていないが、会議等で話し合い、学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分に時間をかけ説明を行っている。要望や質問・疑問点などを出して頂き、事業所で出来る事と出来ないことを明確にした上で契約を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置している。その他、ご家族や利用者からの意見を反映できるよう努め、面会時や電話連絡時、運営推進会議等で随時ご意見・ご要望をお伺いする様に努めている。又、毎月1度『かわら版』を発行し、職員でコメントを添え、ご家族との関係づくりに努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に職員の意見や、提案を聞けるように努めており、反映出来るようにしている。月1回のユニット会議や合同会議でも発言できる機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得への支援を行っている。給与に関しては、試用期間3カ月での給与水準の見直しと、年に2回の勤務評価をしており、その結果に応じて賃金の改定を行っている。勤務表の作成時には休みの希望がないかを確認し、希望には添える様に配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実践者研修や、無資格の職員には資格取得を目指せるように努めている。また、法人外の研修として内部研修委員会を設け、委員会での研修の場を月に1度設けており、職員から学びたいことを聞き取りのうえ、研修内容を決定する等している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者連絡会への参加により交流を図り、情報交換やサービスの質を向上させる様に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○ 初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に出来る限りお話を伺い、困っている事・不安な事・求めている事を傾聴し、全職員に情報提供し、安心して生活できるように努めている。入居後も信頼関係を築ける様努めている。		
16		○ 初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者に至るまでの経緯、困っている事、不安な事等を出来る限り傾聴し、ご家族と信頼関係を築けるように努めている。		
17		○ 初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用前の相談時に話し合いの機会を多く持ち、本人や、ご家族の状況から何が必要なのかを見極めるよう努めている。		
18		○ 本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援を念頭におきつつ、支援する側、される側という意識を持たずに、共に同じ時間を共有し、生活する家族とし、生活している。		
19		○ 本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	支援する側、される側という意識を持たずに、近況報告は随時行い、ホームの行事、運営推進会議の参加を呼びかけ、共に支えていく関係に努めている。		
20	8	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が使用していた馴染みの物を持ってきて頂き、本人の生活が大きく変化しないように努めている。又、本人宛ての電話の取り次ぎや、ご家族が宿泊される際の居室・寝具の確保を行い、馴染みの関係が継続できる場づくりを行っている。親族以外にも知人や友人なども来訪される。		
21		○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	合う人、合わない人は十分承知しているので、状況に応じて席替え・座席の配置考案等を行い、孤立しないように努めている。また、中核症状・周辺症状の把握に努め、トラブルの無い様配慮している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、いつでも連絡を取れる様にしている。又、困っている事があれば相談や支援に努めている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員全員が日々のケアの中、又、仕草や言動・行動から気持ちを推し測り、本人の思いを受け止める様に努力している。毎日の申し送りや情報を共有し、カンファレンスや会議を行い再検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族・知人・本人から情報を収集し生活歴、馴染みの暮らしやこれまでの生活環境の把握に努めている。また、関係機関からの情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録には個人の生活の様子を細かく記録に残す事と徹底している。個人の変化も見逃す事無く記録に残し、職員全員が共有できるように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の観察、意見、アイデア、医師の助言を取り入れた介護計画を作成している。本人だけではなく、ご家族とも協力し合って介護計画の作成に努めている。状態変化時には随時カンファレンスを開き、見直しを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は記録に残し、全職員で共有出来るようにしている。また、担当者が情報を収集し、カンファレンスを行い介護計画の見直しを行っている。状態に変化がみられた場合にはその都度見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診・買い物等の同行支援、事業所の車両使用などを行い、本人やご家族の状況、ニーズに合わせて柔軟な支援が行えるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の協力のもと、買い物や理容店等に行ったり、近所の方と交流を行っている。避難訓練では消防署の協力を得て行ったり、行事に地域ボランティアを招いて交流を図っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期往診、受診で健康管理がなされている。結果について特変があればご家族に連絡し、適切な医療が受けられる体制に努めている。その他の医療機関の受診・往診においても、本人やご家族の希望に添えるよう努め、係つけ医との関係作りを大切にしながら適切な医療を受けられる体制を整えている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内で看護スタッフを確保されており、週に1度看護職員による巡回がある。その際にかあれば相談を行ったり、随時連絡し相談できる体制が整っている。また、提携医療機関との情報共有を行い、適切な受診や医療が受けられる様に支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、頻繁に病院へ行き、病院関係者と早期に退院できる様に話し合っている。又、協力医とも連絡を密に取り合い、本人の状況などの情報交換を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所で出来る事を検討し、ご家族・本人の希望になるべく添えるようにしている。医療機関の先生と話し合いの場を持ち、支援出来る様に努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修で、個別のリスクマネジメントを行い、事故の発生から対応までの話し合いを行っている。緊急時の正しい応急処置・初期の対応の実践力を全職員が現状身につけているとはいえない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を日中・夜間を想定して行っている。訓練実施後には反省点を話し合い、改善策・対応策の検討をしている。また、毎日防災自主点検を行い、事前に改修場所等ないかの確認を行っている。災害時の対応・対策については運営推進会議で話し合われている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	秘密保持の徹底に努めている。プライバシーを損ねる事のないような支援の仕方、言葉かけを心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の意思や希望の確認に努めており、そのうえで自己決定できる様な言葉かけに気をつけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	意見や要望を取り入れ、無理なく楽しく生活できる様努め、利用者主体である事を念頭におき、個々のペースを大切にしたケアを心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な訪問美容室や、馴染みの美容室の利用ができるように支援している。季節や天候、気分に合わせて服装選びを心掛け、支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立作成時に利用者の嗜好品や意見を反映させ作成している。また、有する力に応じた食材の買い物同行・食前、食後の下ごしらえや盛り付け、配膳・下膳のお手伝い等をして頂いている。		
41		○ 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・食事の摂取量をチェック表を付け、利用者の摂取量の把握に努めている。また、食事内容に配慮が必要な入居者には個々に応じた食事の支援を行っている。食事量の変化等、協力医に相談している。		
42		○ 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけや見守り、一部介助などにより、毎食後に口腔ケアが行えるように支援している。		
43	16	○ 排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンや状況等は記録に残し、職員全員が把握し、共有できるように努めている。また、排泄時に自尊心を傷つけないように配慮している。		
44		○ 便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を記録し、全職員状況把握に努めている。また、便秘予防の為、午前中にはヨーグルトを取り入れたおやつを提供したり、体を動かす機会を設けている。水分摂取量や食物繊維の摂取に配慮している。		
45	17	○ 入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回以上の入浴を実施しており、体調や状態に合わせて休息して頂ける様にしている。また、本人が入浴を希望された場合にはその都度対応している。		
46		○ 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や、状況・状態に合わせて休息して頂けるようにしている。夜間安心して眠れる様、日中に活動できる様に支援した上で、希望時、傾眠がちな場合には自由に居室で休息をとれる環境が整っている。		
47		○ 服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の効能・副作用について全職員が把握に努めており、職員研修としての資料作成を行ったり、受診往診後に申し送りして情報の共有をしている。また、協力医や薬剤師の方の支援を受けながら、内服後の変化に気をつけている。		
48		○ 役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の関わりを通して、やりたい事や好きなことを把握したり、ご本人やご家族から話を聞いたりして希望ややりたい事があれば、介護計画に反映させたり、余暇を利用して取り組める様に支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○ 日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物、外食、ドライブなど、希望にそった外出支援を行っている。外出レクや行事などもあり、気分転換や地域とのつながりが継続されるよう支援している。		
50		○ お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が可能な方には、ご家族と相談し、管理して頂いている。金銭の使用については、個々の希望や有する力に応じて、安全に使用できる様に対応し、支援している。		
51		○ 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には自由に電話を使用できるように支援している。また、希望があれば手紙の代筆や代読を行ったり、手紙を送る支援を行っている。		
52	19	○ 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境整備委員会を設けており、掲示物や写真を時期に合わせて変更し、季節感のある装飾や室温・温度、照明の明るさへの配慮を心掛けている。また、場所がわかるようにトイレへのプレートを設置したり、個人の居室には写真を貼っている。		
53		○ 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う入居者同士、気軽に談笑できる様支援している。また、廊下にベンチを設置し談笑スペースを設けている。		
54	20	○ 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物や写真、家具を置いている。また、希望時には模様替えや必要に応じた家具の変更配置を行い、居心地よく生活できる様に努めている。		
55		○ 一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の居室が分かりやすい様に名前入りの写真を扉に貼っている。また、トイレ案内のプレートの配置を行い、転倒防止の為に手すりの設置をしている。トイレの扉は施錠可能なものと、アコーディオンカーテンの2種類がある。		

目標達成計画

事業所名 グループホームあじさい美園

作成日：平成23年5月24日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	34	新人職員などへ急変時や事故発生時の対応が出来ない職員がいる。	全職員が急変時や、事故発生時の対応がしっかり出来るようになる。	内部研修や外部研修でしっかりと基礎知識から身につけ、入居者一人一人の現状を把握する。	12ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。